

# 寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.99 2024.12.20  
発行 寝屋川市自然を学ぶ会  
会長 山田 晃  
事務局 寝屋川市高宮1丁目7-9  
千田正喜 宅  
☎ 090-4036-0719



みんなの掲示板 豊岡 コウノトリの郷と玄武洞 2024.11.26

<青龍洞>

## どきん

さわってみようかな つるつる  
おしてみようかなあ ゆらゆら  
もすこしおそうかな ぐらぐら  
もいちどおそうこな がらがら  
たおれちゃったよなあ えへへ

谷川俊太郎

いんりよくかんじるねえ みしみし  
ちきゅうは まわってるう ぐいぐい  
かぜもふいてるよお そよそよ  
あるきはじめるかあ ひたひた  
だれかがふりむいた! どきん

続々谷川俊太郎詩集

現代詩文庫 109 思潮社刊

## 目次

- (2)行事報告 1. 自然観察 ④里山 下田原地区  
⑤昆虫 深北緑地
- (3)行事報告 2. みんなの掲示板 ④シダ 河内森
- (4)行事報告 3. みんなの掲示板 ⑤豊岡 コウノトリの郷と玄武洞
- (5)野外活動センターとの協働活動②③  
・私の散歩道「閑かな森・竹林」
- (6)参加・協力活動 フェットエスポアール、市民ふれあいフェスタ、大阪自然史フェスティバル、茨田イチョウまつり
- (7)参加・協力活動 六中地域協、図書館行事、出前授業、たんぼほ保育所

- (8)みんなで作る自然教室(便り) ・子ども自然シリーズ講座⑧⑨  
・幼児と保護者の自然教室②
- (9)みんなで作る自然教室(便り) ・大人自然シリーズ講座②③④  
・自然塾⑤⑦⑧
- (10)自然はAmazing! シダ植物7「イノモトソウ」
- (11)自然界のふしぎ アンモナイト3「アンモナイトの進化」
- (12)私の自然観察 身近な昆虫47「クヌギカメムシ」
- (13)図書紹介「恐竜のあたまの中をのぞいたら」  
・絵手紙2通
- (14)行事予定 定例自然観察会⑦冬鳥 ⑧私市植物園、みんなの掲示板 野鳥、展示会案内、野活環境整備④

第4回自然観察会 里山 下田原

9月23日(月・振休)

参加者13名

～ガガイモの可憐な花が！～

田中 英明

昨日の雨も上がり、秋晴れで観察日和の一日でした。

初めて見たのは、集合場所奥の枯れかけたクロククがつけていた花です。一般に、竹の仲間は花を数十年ごとにつけた後に枯れると言われています。集合場所から道路に出る付近では、サツキに巻き付いたガガイモが可憐な花をつけていました。



ガガイモ



観察の様子

今年のコースは、尾根道には入らず、両側が田んぼの道を通って林道に向かいました。入ったすぐの左側に大きなクマノミズキがあります。少し奥の右側には赤い実をつけたケアクシバが見られました。7月初め頃に咲く淡紅色の

可愛い花は必見に値します。石切り場跡への道にはコ克蘭、コメナモミ、カギカズラなどが見られました。

堂尾池への道に入ったすぐ右手にはクチベニタケ、池の仕切られた箇所には自生のツルヨシ、ヒメガマや植栽と思われるコガマ、アブラガヤ、コウホネが確認できました。

他に見た植物の一部を記すと、ヤブマメ、マメヅタ、ハンノキ、ツリバナ、ワレモコウ、シラキ、ヨシノアザミ、ゴンズイ、ハンゲショウ、コブナグサ、ニガキなどでした。



ナラタケモドキ

キノコの観察については、上田豪さんの案内で、ヒイロタケ、ナラタケモドキ、クチベニタケなど35種のキノコが確認されました。昼食後にキノコの同定があり、上田さんの説明に聞き入り、質



キノコの同定

問などもあり、キノコへの関心も高まりました。

第5回自然観察会 昆虫 (深北緑地)

10月6日(日)

参加者65名 (内子ども27名)

～楽しかった！～

高本 憲一

10月6日(日)深北緑地公園で昆虫観察会が開かれ、秋の青空の下、たくさんの親子連れが参加しました。



受付の様子

参加者たちは、ちょっと伸びすぎた草むらに苦戦しながら昆虫探し。「おったで、大きい」「そっちに飛んだで」などと歓声を上げながら、大人も子どもも虫捕り網を手に、とび跳ねるトノサマバッタや、イナゴや、クビキリギスなどを楽しそうに追いかけてきました。



バッタつかまえた！



たくさん捕れたね

タについて「眼は何個あるの?」「耳はどこ?」「羽の形は?」など少しだけ勉強もして、それぞれ飛ばしたバツタの表彰状を受け取って解散しました。

その後、少し場所を移動して、捕まえたバツタの中から1匹ずつを選んでバツタの運動会。大きさの割に意外に飛ばないバツタや、小さいけれどよく飛ぶバツタもいました。場外まで飛んでいって測定不能のバツタも3匹、測定可能なバツタの最長距離はメスのトノサマバツタで44メートルでした。



遠くまで 飛んでー!!

#### 第4回みんなの掲示板 シダ植物 (河内森)

10月9日(月・祝) 参加者19名

#### ～シロヤマシダの復活～

天野 史郎



シロヤマシダ



これが シロヤマシダです

なりました。イノデとアイアスカイノデの雑種で、初心者には見つけるのが少しむつかしい。雑種強勢で大きく育ちます。谷の出合につくと、しばらく姿を消していたシロヤマシダが復活していました。喜ばしい限りです。

河内森駅近くの天田神社で見どころの説明があり、世話役の中村さんから3つのシダを見るようにとのミッションが下される。その1つ目がヒメミズワラビ。天田神社そばの田んぼにヒメミズワラビがあります。ちょうど稲刈りも終わり大変見やすく、田んぼ一面の群生です。近年減少し絶滅を心配されている植物ですが、ここでは元気でした。

道ばたにはホシダやシケシダ、ゲジゲジシダなど、おなじみのものがでてきます。スギ林ぞいはいミゾシダやイノデなどがあるものの、草刈りでずいぶんいじめられています。斑入りのマツザカシダが側溝にあります。2つ目がこれ。おそらく栽培品の逸出と思われます。

高区配水池から谷に入り、ひときわ立派なイノデが目につきます。これが3つ目でドウリョウイノデ。この谷では普通に見られましたが、今ではすっかり少なくなりました。



マツザカシダ



ドウリョウイノデ

第5回みんなの掲示板 豊岡コウノトリの郷と玄武洞 11月26日(火) 参加者26名

## ～天気も味方して～

中村 清秀

雨天覚悟で出発し、一路コウノトリの郷公園へ。なんと現地は晴れ。駐車場に着くなり、参加者から“人工塔にコウノトリが2羽とまってる”の声。『私の飛ぶ姿を見せてあげるわ、シャッターチャンスよ』と言わんばかりに羽ばたき、近くの畑に。“わー、きれい”“意外と大きいね”等々言いながら文化館へ。職員さんから取り組みの説明があり、現在全国で470羽が観測されるとのこと。コウノトリの



飛んだ!

人工塔の  
コウノトリ

コウノトリが飼育され、少し離れたケージでは数十羽飼育されているようです。

野生化、保全への取り組みに尽力されていることに感謝です。観察広場では6羽のコウノトリが飼育され、少し離れたケージでは数十羽飼育されているようです。



文化館で説明を聞く

玄武洞では公園長自らガイドをして下さり、柱状節理の意味、玄武洞や青龍洞の謂れ、成り立ち、更には大陸移動説や地磁気の反転など、壮大な地球のロマンを語られ、感動しました。



玄武洞で説明を受ける



玄武洞

バスに乗ってから雨が降り出し、“見学中雨降らんでよかったねえ”の声が。参加者の皆さん全員が晴れ女、晴れ男の観察会でした。

## 参加者の感想

～ありがとうございました～

大嶋 昭男

雨が降るといふ天気予報に、どうなることかと気をもみましたが、晴れ男、中村さんの念力が通じたのか、ほとんど傘をさすこともなく、コウノトリの里と玄武洞の見学ができて幸せでした。コウノトリの里では、巣の中にいる2羽のコウノトリに迎えられました。白と黒の羽のコントラストの美しさ、カタカタカタというクラッタリングの激しさに驚きました。また、食物連鎖を考慮した、コウノトリを守り増やすための様々な取り組みは、素晴らしいと思いました。玄武洞では、久しぶりにアカデミックな話が聞け、楽しかったです。玄武岩のいわれ、地磁気の逆転、チバニアン・・目の前にある柱状節理の美しさとともに地球のエネルギーを感じるひと時を過ごせました。

## 寝屋川市野外活動センターとの協働活動

## 第2回環境整備と協力活動

10月11日(金)

参加者13名

好天の元、蛍広場への道や階段の掃除、工作室の掃除、落ち葉の片付け、炊事場の掃除をしました。作業終了後、寒谷池へ。ミドリワラビを見たり、寒谷池の水のない所ではタヌキやアライグマの足跡などを観察しました。

昼食後、野外活動センターを利用する団体(小中学生13名)に協力。始めに工作室の前で、アラカシの葉を使って『恐竜ステゴザウルス』づくり、みんな“おお〜”と感動。工作室に入ってタヌキのはく製に二度びっくり。触ってみると毛が意外と硬いことに気づく。自然は本当におもしろい。

工作室ではどんぐりや木の枝、木の葉などを利用しての工作。グルーガンを使って、自分のイメージで創った作品はどれも個性があふれ、世界に1つだけのもの。子どもたちの満足気な笑顔がステキでした。



ステゴザウルスを使った



どんぐり工作

## 第3回自然観察と環境整備

12月3日(火)

参加者23名

天気も良く暖かい日で、作業を進めていくと、暑くなり上着を脱ぎました。多くの方に参加していただき、蛍広場への道の掃除、石垣の草抜き、木の剪定、外れている樹木の名札掛けや名前の確認、落ち葉の掃除、昼食の用意と分担して作業しました。作業をしながら、つるやヒイラギナンテンなどリース作りの材料になりそうなものも集めました。

お楽しみ昼食は、松茸ご飯、豚汁、厚揚げと玉こんにゃくの煮物と豪華なメニューで美味しくいただきました。

午後からは、紅葉の観察とリースの材料集めに室池園地へ。きれいな紅葉に満足。



もみじ きれい!!



木の剪定

## 私の散歩道

## 「閑かな森・竹林」

吉岡 孝夫

私の散歩場? そこは閑かな森・竹林です。なぜならコロナがないか…???お気に入りのは堺の「共生の森」と「尼崎の森」。共通するのはどちらも埋立地や工場跡地の原っぱを100年かけて郷土種による森づくりを目指しているところです。2004-5年にスタートし約20年たちやっ

埋立地に森をつくるー  
(2011 共生の森)

森らしくなってきました。共生の森には2007年に参加、荒地に木を植え成長する姿を眺めてきました。木が育つにつれ、多くの鳥や虫や動物たちが引き寄せられる自然の力・不思議さに心癒されています。尼崎の森では草本にこだわりをもって、武庫川、猪名川地域の在来種子を採取し育てて植栽する森づくりをしています。森づくりには樹々だけでなく幅

早く大きくなれ  
(尼崎の森 圃場)

広い見識が必要だと感じ、「自然を学ぶ会」をはじめいろいろな場に参加しています。森づくり

## 参加・協力活動

この秋も、小学校や地域団体などと参加・協力活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力をいただきました。

### □フェットエスポアール 10月26・27日(土・日) 協力者22名

前日に周辺にお知らせの旗立と、部屋の準備を行いました。本会からは、例年通り活動内容・どんぐり等の展示と自然物を使っての手作り工作活動です。

グルーガンを使ってのどんぐり工作、幼児用の白いこま、レインボーごま、どんぐりペンダントです。白いこまは2日目に無くなったので、ぶんぶんごまを作ってもらいました。開始の10時前から待っている子がいるなど、4時まですごく賑わっていました。本会場には、2日間で大人・子ども合わせて401名の方が来場され、どんぐり工作など時間を忘れ熱心に作業し、楽しんでおられました。



勝負!

### □市民ふれあいフェスタ 11月9日(土) 協力者6名

「出会おう つなごう 大きな輪」を合言葉に、みんなで作るふれあいの祭典が市民会館で実施されました。昨年よりも多い70ほどの団体が、展示、セミナー、ステージなどで参加していました。

本会は従来通り「会や年間活動の紹介」と「手作り工作」での参加です。会の活動の紹介をパネルで行いました。また、子ども向けの工作（どんぐりペンダント・ぶんぶんごま・こまの色ぬり）をしました。子ども関係のブースが同じフロアに集められ、子ども達で賑わいました。子どもだけでなくぶんぶんごまを懐かしむ大人も。



うまく回るかな!

### □大阪自然史フェスティバル 11月16・17日(土・日) 協力者9名

大阪市立自然史博物館で大阪近郊の自然関連の団体、サークルが集まって、互いの活動



ペンダント作り

を交流する場として開催されています。本会も活動内容の掲示どんぐりを中心とした数種類の木の実の標本と手作り工作(どんぐりペンダント、やじろべえ)で交流を図りました。手作り工作は、二日目の午後には予定していた数が無くなり、訪ねてきた子は少し残念そうでした。他団体のコーナーへ行ったり、向こうから来られて興味深いお話にも触れることができ、有意義なときを過ごせました。

### □茨田イチョウまつり

11月24日(日) 参加者約120名 協力者6名

淀川点野の茨田樋遺跡水辺公園で第17回イチョウまつりが開催され、本会からもパネル展示とどんぐり工作などのクラフト体験で参加しました。



まつりの様子

参加者はふかしイモや焼きギンナンをいただきながらEボート乗船体験などを楽しみ、茨田樋遺跡水辺公園のいわれを聞くなど水辺交流の輪が広がりました。

### □六中校区地域協議会 11月23日(土・祝) 子ども53名 協力者9名

六中校区地域教育協議会主催で、今年は国松緑丘小学校の体育館で行われました。始めに、全員でどんぐりペンダントづくり。出来上がったペンダントを首にかけ次の取り組みに。メインのどんぐり工作では木の実、木の枝、木の葉などを組み合わせて子どもがイメージで描いたものを作り上げていきます。



どんぐり工作

どんぐりにペイントしてトトロに変身させたり、グルーガンを使って木の枝にいろんな木の葉や実をくっつけるとまるで森の中など、個性に溢れ感性が光る作品が出来上がりました。選択できる工作では①傘袋ロケット②やじろべえ③ぶんぶんごま④ヨーヨー風車を用意し、4つとも作った子もいました。完成した傘袋ロケットを飛ばしたりして、子どもたちはとても満足気でした。

### □図書館行事 科学講座

「音のふしぎ」 11月10日(日) 子ども17名(他21名)

物が振動して音が伝わることを、いろいろな楽器を使って調べていきます。トレイに輪ゴムをかけてはじいたり、太さや長さの違うストローで笛を作って吹いてみたりして、高い音と低い音の違いを探ります。次に、太鼓をたたいたりして空気の振動で伝わってくることを知らせます。子どもたちにとり、難しい話の時もありましたが、最後まで熱心に聞いていました。次に、竹でカスタネットを作り、山田さんのハーモニカに合わせて合奏しました。「音がこんなに楽しいなんて思わなかった」の感想。



太鼓をたたくと

### □出前授業 10月～12月

香里ヌヴェール、北小、宇谷小、楠根小、神田小、南小、和光小、池田小、三井小、桜小、東小、たんぼぼ保育所の12施設に行ってきました。子どもたちに大歓迎された後、秋の様子や木の実、どんぐりのお話。そして、お待ちかねのどんぐりを使った工作です。どんぐりごまではみんなで回しあいをして楽しみました。トトロを使った工作は、何回も付けてもらいすごく満足していました。帰りには「また来てね」「楽しかった」等、どこの施設も別れを惜しんでくれました。



秋のお話

### □たんぼぼ保育所 10月29日(火) 園児26名 協力者3名

「さわれるかな? トノサマバッタ」 「よく見てみようオオカマキリ」

園庭の真ん中で、バッタの入った飼育ケースのふたを開けると、トノサマバッタなどが飛び出してきました。気温が低かったせいか勢いよく飛び出さず、子どもたちはバッタをつかまえて大喜び。服に何匹も止まらせている子も。さわれなかったのに、少しさわれた子も。



バッタだー!

十分楽しんだ後、遊戯室へ。班に分かれ今日見た虫について話し合い、その後「トノサマバッタクイズ」と「カマキリクイズ」でそれぞれの生態を学びました。「バッタ、いっぱいつかまえた」「トノサマバッタ羽ばたくのを見て楽しかった」など。

## みんなでつくる自然資料室だより

### □子ども自然シリーズ講座

暑さが長引いたため、木の実や葉などの持ち込みが例年より遅くなりましたが、皆さんのおかげで多くの木の実で一杯です。

#### ⑧摂南大プログラム

9月21日(土)

子ども16名(他27名)



よく聞いておいてね!

摂南大学の学生による楽しい工作「紙ひこうきを作って飛ばそう」という企画です。映像を見て子どもたちに分かりやすく説明してから作ります。種形に切って折っただけの飛行機、円筒にした飛行機、とんぼ形に切った飛行機、折り紙を折りこんだ飛行機とそれぞれ作っては、階段下で飛ばし合いっこ。子どもたちはその都度、一番遠くへ飛んだことで大喜び。最後に作った折り紙の飛行機は大変難しく、学生さんに手伝ってもらいながら完成させていました。

#### ⑨リース作り

12月7日(土)

子ども21名(他18名)

摂南大の学生さんがお手伝いに来てくれるなど、満席の状態が始まりました。最初は、リースの話と意味、そして樹木の話と作っていくときの注意がありました。まず、限定品を一通り見ていき、手元にあるクズのつるの輪にグルーガン等で付けていきます。ナンテンの実やヒイラギの枝等もすばやく付けていきます。周りにいる大人の手助けもあり、だいたい時間内に仕上げました。「たくさん付けて、うれしかった」と何回も自分の作品を見せに来る子もいました。



どこに付けようか!

### □幼児と保護者の自然教室

#### ②おむすびころりん

10月12日(土)

子ども10名(他13名)



お父さんと一緒に!

小さい子と大人と一緒に作っていく企画の2回目です。三角型のおむすびと俵型のおむすびを作ります。中井さんが用意しておいた厚紙を切り抜きます。立体に組み立てて、ビー玉を入れて、段ボールの坂道を組み立てて完成です。坂道を転がすとおむすびがカタンカタンとうまく転がり、子どもの顔に笑顔が。次に、傘袋をふくらませてロケットを作りました。はさみで紙を切って傘袋に張り合わせるのに、子どもと協力し合って組み立てていきます。出来上がったロケットを部屋の中で飛ばし、そのうち、外へ出て思いっきり飛ばして楽しんでいました。

□大人自然工作シリーズ講座

②竹工作(干支の巳) 10月31日(木) 参加者34名

昨年作った「辰」と同じように作ります。1本の竹から、同じ太さの筒を4本切り分けま  
 ず。その1つ1つを半分に切って、頭、胴、しっぽを作ります。頭は  
 楕円形になるように張り合わせ、胴はそのまま、しっぽは先を細くなるように剪定ばさみ  
 等で削りました。それぞれを紙やすりで磨き、



完成!

グルーガンで組み立てていきました。皆さん



熱心に取り組み、グループ内でのおしゃべりもあり、楽しい時間でした。 組み立て中

③④リース作り 12月9日(月) 参加者午前34名・午後32名

11月2日の申込日は、電話が鳴りやみません。「参加される  
 日は、午前ですか。午後ですか」と今回は1日の企画としました。  
 当日は、開始前からすでに待っておられる方も。例年通り  
 リースとクズの話で始まります。飾り付けには、クリスマスホ  
 ーリー、ナンテン、トベラなど15種類の木の実と枝が用意さ  
 れ、人工的に作った物も限定品として用意しました。麻ひもと  
 針金で付ける位置を決め、グルーガンで固定します。どの顔も  
 真剣。子どもたちとは違い、まず自然物の木の枝や実を取りに行き、取りつける位置を決  
 めてからグルーガン等で固定します。「去年作ったのより、うまかったと思う」など、グ  
 ループ内で褒め合ったりと和気あいあいでした。



松ボックリは、ここ

□ねやがわ自然塾 (第7期)

○第5回講座 10月3日  
 「シダ植物」

- ①シダ植物の話
- ②私市植物園にあるシダ植  
 物を観察  
 (雨天のため、午後は中止)



私市植物園にて

○第7回講座 10月24日  
 「身近な樹木②」

- ①樹木と実等の話
- ②木の葉を使った作品作り
- ③寝屋川公園の植物を観察



公園を散策

○第8回講座 11月14日  
 「川とくらし」

- ①寝屋川・淀川等の話
- ②寝屋川の実地観察  
 (駅前～ポンプ場～駅前)



市の地図で確認!

# 自然はすばらしい シダ植物シリーズ7

イノモトソウ 井の許草 イノモトソウ科

天野 史郎

イノモトソウは、住宅地の石垣や路傍など人里に近いところから山裾まで、ごく普通に見られます。井戸のそばでよく見られたことから井の許草とよばれるようになったようですが、今では井戸自体が見られなくなってしまいました。和名の命名者は江戸時代の本草学者・伊藤圭介とのことで、のちに東京帝大の教授になった人です。



栄養葉

イノモトソウはごく短い根茎から多くの葉をだします。葉は常緑で紙質、頂羽片があり数対の側羽片をつけ、葉脈は辺縁に達しません。また2形性をしめし、孢子葉は大きくて羽片は細く、栄養葉は小さくて羽片は幅広です。

孢子葉のふちは図1のように巻きこみ、その中に孢子のうをつけます。この包膜状のカバーを偽包膜とよびます。

羽片が細く中軸に流れてヒレとなった特徴のある姿は、シダの中ではおぼえやすいものの一つです。

近縁種にオオバノイノモトソウがありますが、中軸にヒレがないこと、葉脈が辺縁に達することから、容易に見わけがつかず。オオバノイノモトソウは人里から山地にかけてみられ、両種の分布域の境目で雑種を形成することがあります。この2種間の雑種は、従来セフリイノモトソウとよばれていましたが、最近アイイノモトソウと変更されました。

セフリイノモトソウの元となった標本を詳しく調べたところ、雑種ではなく中軸にヒレのある極端な形のオオバノイノモトソウであ

緒方正資・日本シダ類図集（一部改変）

ることがわかりました。そのためセフリイノモトソウの名前を使用するのは不適切と判断され、新たにアイイノモトソウという名前が用意されたのです。ところで、セフリイノモトソウのセフリとは発見地の福岡県脊振山地にちなみます。

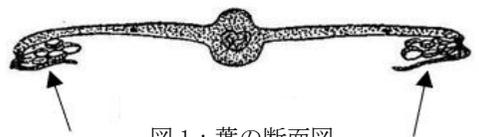


図1：葉の断面図

葉の両端が巻き込み孢子のうを包む

## 自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「三葉虫のふしぎ1～4」に続いて、今年度は「アンモナイトの不思議1～4」をお届けしています。

### アンモナイトの不思議3

#### 「アンモナイトの進化」

西村 寿雄

今回はアンモナイトのなぞに迫ってみましょう。「アンモナイトはイカ・タコの仲間」と言われますが、あのぬるぬるしたイカと同じ仲間？ と思いませんか。大きな殻があるのにイカ・タコと同じ仲間なんです。また、原生のオウムガイはアンモナイトの生き残りだとも言われます。なんででしょう。

アンモナイトとオウムガイは長く長く生きてきた歴史があるのです。実は、オウムガイが先輩です。オウムガイはもう古生代のころから暖かい海に生息していました。古生代の頃も殻をかぶっていましたが、みんなスマートで細長い殻でした。海には天敵の魚類もいます。オウムガイは魚のいい餌食でした。

「これはなんとかしないとおれたちは生き残れないぞ。」

オウムガイは考えました。

「そうだ、体の殻をもっと強くしよう。」

オウムガイは殻を強くするため体の先に丸みをつけました。

何世代か過ぎると、体の先はまん丸くなっていました。

これがアンモナイト誕生のきっかけです。以後アンモナイトがどんどん増えてきました。すると、オウムガイは言いました。

「これじゃ、おれたちの餌もどんどん減ってしまうじゃないか。」

しかたなく、オウムガイは深い海に生活の場を移しました。

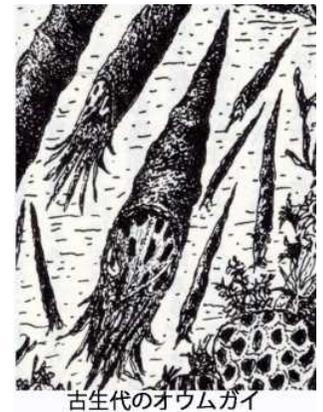
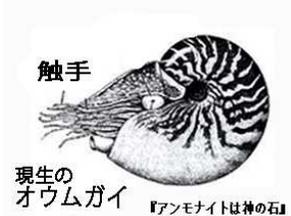
オウムガイにかわって、アンモナイトは浅い海でどんどん増えました。浅い海ではアンモナイトは種類も増やし、浅い海はアンモナイトの世界になりました。

そんなアンモナイトにもちょっと不安もありました。大きな爬虫類が出てきてアンモナイトを食べ出しました。アンモナイトはイカ・タコのように墨をはいて闘いました。

そんな時、地球に大きな異変が起きました。なんででしょう。

突然大きな隕石が地球に落ちてきました。太陽の光をさえぎり空の温度は下がっていき、海中は冷え切った海になりました。おかげで、浅い海にいたアンモナイトはどんどん姿を消していきました。アンモナイトはついに絶滅です。中生代の終わり約 6500 万年前の出来事です。かたや、オウムガイは深海で生活していたため、この大事件から逃れられて現代でも深海に棲んでいます。

日本では、この中生代の地層はたくさんあります。絶滅したアンモナイトの化石も豊富に出ます。次は、私がアンモナイト化石探しに北海道の地を探し回ったお話をしましょう。



私の自然観察

身近な昆虫 47

—秋色に染まる・クヌギカメムシ—

高本 憲二

この時期（晩秋）になると見に行きたい虫がいる。何年か前までは散歩の途中でもよく見かけたのだが、最近を探さないと見つからない。

夏は右のように緑色をしているが、秋も深くなると下のように触覚と脚が朱色に染まってきます。クヌギカメムシです。その名の通りクヌギに依存しているカメムシで、この時期メスはクヌギの樹皮の窪みに細長い卵の塊を産みつけます。この卵はゼリー状のもので覆われています。冬の間には孵化した幼虫は3齢になるまでこのゼリーを食べて育ちます。ゼリーには3齢まで育つのに必要



な栄養分と共生細菌が含まれているそうです。

クヌギカメムシの卵塊



クヌギカメムシの仲間他にヘラクヌギカメムシとサジクヌギカメムシがいるが、気門の色や生殖器の形などで区別できるそうです。(ここではその様な確認はしていないのでクヌギカメムシとしておきます)

ところで、このカメムシたちはどうして秋深くなると赤く染まるのか？木々の紅葉に合わせて体色を変えりとか、婚姻色とか考えられるが、その理由とメカニズムについては未だ説明されていないようです。

皆さんもこの秋、公園の散歩や観察会の途中で秋色に染まるカメムシたちを観察してみたいはいかがでしょうか？



秋色に染まったクヌギカメムシ

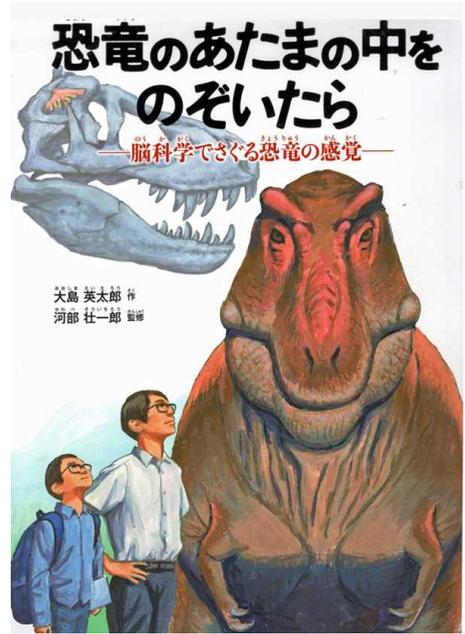
図書紹介 ～こんな本が出たよ～

『恐竜のあたまの中を のぞいたら』 大島英太郎/作

河辺総一郎/監修 福音館書店

恐竜研究は今や新しい段階になってきた。今までは、出てきた化石を外から眺め顕微鏡などで外殻をくわしく観察していた。恐竜に羽毛があるとか、鳥は恐竜が進化した生き物だなどもわかってきた。それが今やデジタルの時代になった。おかげで、CT スキャンなどで頭骨化石の内部構造まで見られるようになった。内部はなかなか複雑なのだが、3D プリンターなどで内部を造りよりリアルに頭骨内部を見ることができるようになった。副題には「脳科学でさぐる恐竜の感覚」とつけられている。

この本は、恐竜化石の脳科学研究のようすを描いている。中学生ぐらいのボクが恐竜研究者のおじさんを尋ねていろいろ質問していく。最初のページは、ぼくがおじさんとある博物館を訪れている絵。大きな4恐竜化石が並んでいる。次は、頭骨化石がアップされた絵が出る。頭骨化石もよく見ると穴だらけ。目や鼻のあった位置が大きく開いている。次は前から見た絵。いろいろおじさんの説明が入る。目の位置で、草食恐竜の化石か肉食恐竜の化石か見分けられるという。こんどは、ティラノサウルスのあごの絵。鋭い歯がずらりと並んでいる。よく見ると歯並びのしたに小さな穴がずらり・・・おじさんの説明では、どうやら神経や血管が通っていたみたい。今度は頭骨を後ろから見た絵。脳が収まっていた脳かんが見える。ここを研究者は「エンドキャスト」と言っている。空間の多い頭骨をCT スキャナーに通している絵が出る。病院でよくお世話になるあのCT スキャナーである。これで脳かんの内部の様子がいろいろわかる。次に脳の核部分の説明図が出るが原生物とも共通している。次にティラノサウルスやいろんな恐竜のエンドキャストの模型が出ていろいろと説明がある。さらに、コリトサウルス内耳の説明も出てきて終わっている。最後に恐竜脳科学専門の監修者の河辺さんの解説もある。



2024年7月 1,600円

<西村 寿雄>

絵手紙 2通



内田 桂子



野田 都起子

# 行事予定



紅葉 室池園地 12/3

## □第7回 定例自然観察会

### 「野鳥の観察」

～打上川治水緑地とその周辺～

◇日時：2025年1月12日(日)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：打上川治水緑地 西北口

午前9時30分集合

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

この行事は、寝屋川市環境総務課と共催で実施します。本会会員は申込不要です。集合場所において下さい。

\*下見：1月7日(火)日程は当日と同じ

## □第6回 みんなの掲示板

### 「淀川の野鳥」

～淀川河川公園・枚方地区～

◇日時：2025年2月11日(火・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合：淀川資料館裏河川敷駐車場

京阪枚方市駅から徒歩15分

◇持ち物：双眼鏡、ガイドブック他

◇案内：本多 政雄さん

## □第8回 定例自然観察会

### 春の野草・樹木 「私市植物園」

◇日時：2025年3月20日(木・祝)

9:30～12:00 雨天中止(午後は自由見学)

◇集合：私市植物園 9時30分

◇持ち物：筆記用具、水筒、(弁当)

◇案内：本多 政雄さん

◇入園料 350円

(中学生以下無料・府内在住65歳以上150円 \*要証明)

◇駐車料 500円

## 展示会「私の自然観察」

◇日程：2025年2月19日(水)～25日(火)

◇会場：アルカスホール 1階ギャラリー

◇展示内容

①本会の今年1年間の活動記録

②会員のみなさんの「私の自然観察」

③関係機関・団体の活動紹介ほか

(参加者の交流コーナーも予定しています。)

◇展示作品の募集

身近な生活や旅行等で撮られた「自然」に関わる写真などをお寄せください。内容・形式については自由です。

\*展示作品の受付等、詳しくは別紙連絡資料をご覧ください。

## □野外活動センターの自然観察と環境整備④

◇日時：2025年2月4日(火)10:00～14:00

◇持ち物：帽子、雨具、水筒など

◇内容：センター内の自然観察と環境整備

◇昼食：お楽しみ昼食

◇参加申込：1月29日(水)までに

千田(090-4036-0719) 東森(090-5645-1531)へ



ウバメガシ 野外活動センター 10/11

## 編集後記

2学期は参加行事や出前活動が沢山ありました。フェットエスポアールでは、本会の活動に多くの親子での参加があり、こま回しでも、どんぐり工作でも子ども達の楽しい声が続きました。市民ふれあいフェスタ、イチョウ祭、自然史フェスティバルでも自然にかかわる多くの団体との交流も深めました。会員の皆さんのご協力ありがとうございました。

はまだまだこれから！がんばります。